



イベントレポート

2018年11月27日

【CTO of the year 2018 イベントレポート】

CTO of the year は、atama plus 株式会社 CTO 川原 尊徳氏、オーディエンス賞は、株式会社 Voicy 最高技術責任者 窪田 雄司氏に決定
～ビデオで振り返るハイレベルな7人のピッチバトル～

2018年11月21日にAWS Loft Tokyoで開催されたCTO of the year 2018。栄えある第五代目のCTO of the yearには、atama plus CTO 川原 尊徳氏が、そして今回新設されたオーディエンス賞には、株式会社 Voicy 最高技術責任者 窪田 雄司氏がその栄冠を勝ち取りました。



「CTO of the year」とは

システムや組織の急成長に伴う技術課題に向き合うCTO(最高技術責任者)にフォーカスを当て、2018年もっとも輝いたCTOを選出し、その顕著な功績を讃えるイベントです。当日は、自薦・他薦によりエントリーした新進気鋭のスタートアップ企業のCTOによるピッチコンテストを実施し、歴代CTO of the yearを特別審査員に迎え、独自性、先進性、業界へのインフルエンス、組織運営などを評価対象として今年も未来のスタートアップの立役者を発掘します。

【「CTO of the year 2018」開催概要】

- 会期:2018年11月21日(水)17:00~19:00 @アマゾン新目黒オフィス 目黒セントラルスクエア
- 主催:CTO of the year 実行委員会
- CTO オブ・ザ・イヤーアドバイザーボード:
カーディナル合同会社 代表社員 / 元楽天株式会社 CTO 安武 弘晃氏、
株式会社ソラコム 代表取締役社長 玉川 憲氏
- メディアパートナー:TechCrunch Japan
- 運営パートナー:イベントレジスト株式会社
- 企画・運営協力:アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
- 公式サイト:<https://goo.gl/otraCd>
- 審査委員長
藤本 真樹氏(グリー 取締役上級執行役員/最高技術責任者)
- 審査員
白井 英氏(Craft Egg、ジークレスト、サムザップ各社におけるCTO)
吉田 博英氏(TechCrunch Japan 副編集長)
松尾 康博氏(アマゾン ウェブ サービス ジャパン ソリューションアーキテクト)
- 特別審査員
2014年CTO of the year:竹内 秀行氏(ユーザベース チーフテクノロジスト、UB Ventures テクノロジーパートナー)
2015年CTO of the year:安川 健太氏(ソラコム CTO/Co-founder)
2016年CTO of the year:橋立 友宏氏(Repro CTO)
2017年CTO of the year:大竹 雅登氏(dely CTO/執行役員)

第1部:今までのCTO of the yearの歩み

まず始めに、CTO of the year 実行委員会として、本イベントの企画面をサポートした、AWS スタートアップ事業開発部 プリンシパルマネージャー 畑 浩史から、今までのCTO of the year 誕生の背景、そして今までの歩みが紹介された他、「世

の中に CEO や COO など、ビジネス系の人材向けの賞はあっても技術系の賞がない。CTO の働きを皆で讃えるイベントを作ろう！というのが、CTO of the year が産声を上げるキッカケだったこと」などが紹介されました。

第 2 部：歴代 CTO of the year によるパネルディスカッション

続いて、歴代 4 名の CTO of the year をお招きしたパネルディスカッション企画を行いました。



写真左から

- 【モデレーター】塚田 朗弘 アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社 シニア ソリューションアーキテクト
- 【パネリスト】竹内 秀行 氏 (2014 CTO of the year) 株式会社ユーザベース チーフテクノロジスト、株式会社 UB Ventures テクノロジーパートナー
- 【パネリスト】安川 健太 氏 (2015 CTO of the year) 株式会社ソラコム CTO & Co-founder
- 【パネリスト】橋立 友宏 氏 (2016 CTO of the year) Repro 株式会社 CTO
- 【パネリスト】大竹 雅登 氏 (2017 CTO of the year) dely

タイプもステージも異なる 4 人によるパネルディスカッションは、受賞者に待つ「オブザイヤー」称号についての笑い話や、CTO としてのポジショニングや指向など、様々な話題をカバーした濃密な 30 分でした。

<第 1 部・第 2 部の様子> <https://youtu.be/5RoNbyvgfRc>

第 3 部：ファイナリスト 7 名によるピッチバトル

本イベントのメイン企画となるスタートアップ企業のピッチバトルが行われました。登壇者は、1 人当たり 7 分の持ち時間で、自らの CTO としての経験に基づくストーリーを披露しました。

<ピッチバトルの様子>

<https://youtu.be/VJZxWEJtDhs>

<https://youtu.be/jUJolowX2XM>

<https://youtu.be/3TiEaTsSQ2Q>

CTO of the year 2018 は atama plus 株式会社 CTO 川原 尊徳 氏 に決定！

川原さんのピッチタイトルは「Lean AI 開発により、3 ヶ月でプロダクトマーケットフィット、1 年で大手塾の 2 割に導入するまで至った話」というもの。自社プロダクトを迅速にリリースしていくために重ねた試行錯誤やその裏側にあるストーリーが披露されました。



3ヶ月でプロダクトマーケットフィットを目指すという目標のなかで、AI アルゴリズムをいかにして超高速開発するか、そしてその改善サイクルを回すかという点が amata plus にとって極めて重要だったと川原さんは語ります。Lean AI 開発というコンセプトで話す中で、以下の2つのポイントが極めて大事だということに気がついたということです。

Lean AI開発を支えるアーキテクチャ

atama+

達成すべきこと

- 多次元のデータを入力として取れる
- ブラックボックスが少ない
- 変更や修正が簡単
- 壊れにくい

上記を実現する設計の秘訣

1. 「一つの大きなアルゴリズム」よりも
「多数の小さなアルゴリズム」を。
2. 「ルールベースアルゴリズムの拒絶」よりも
「ルールベースアルゴリズムとの共存」を。

審査員を含めて、多くの聴衆の興味を引いたのがこの2つの秘訣。川原さんは同社での具体的な取り組みを、実際の体験を交えて詳細にピッチしました。

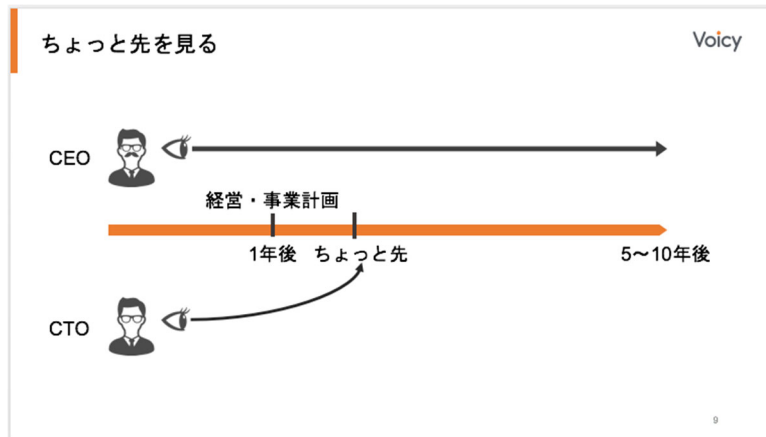
今年新設された「オーディエンス賞」には、 株式会社 Voicy 最高技術責任者 窪田 雄司氏が輝く

今年の CTO of the year では、会場にお越し頂いた方の投票によって決まる「オーディエンス賞」を設けました。会場にお越し頂いた方がリアルタイムの投票システムによって、皆さんの視点で最も優れた CTO を選出してもらおうというものです。

初代のオーディエンス賞に輝いたのは、株式会社 Voicy 最高技術責任者 窪田 雄司氏でした。

窪田さんのピッチタイトルは、「サービスを最速で伸ばす先回りの技術」。中長期の事業計画も含めて見ている CEO に対して、CTO は、CEO のちょっと先に視点を置いて、様々な準備を進めておくことが肝要だと窪田さんは語ります。





例えば、人気のインフルエンサーが Voicy のサービスを使い始めたことで、アクセスが急増した際の話など、実経験を交えたリアリティのある教訓をプレゼンテーションしました。

今年の CTO of the year を振り返ると

審査委員長の、グリー株式会社の藤本様(取締役 上級執行役員 最高技術責任者)から、「審査に関わるのは今年で5年目だが、間違い無く毎年レベルが上がっている。この賞に参加すること自体登壇者のレベルが上がっていることは、業界としても非常に良いことだ」というコメントがありました。

AWS は、これからも日本における CTO の重要性の認識が高まること、そして、CTO コミュニティの強化のために CTO of the year を応援していきます。

#####